▲上粕屋・秋山遺跡９区（谷部）　縄文時代後期の遺物出土状況（北から）

谷で見つかった特殊な遺物

谷から出土する土器は、ほとんどが破損した状態です。そのなかで、完形に近い状態の注口土器が２点出土しました。

どちらも土坑状の掘り込みの中から発見されています。こうした出土状況から、この注口土器は祭祀・儀礼等に関わる遺物である可能性があります。谷が捨て場として利用されていることを考慮すると、壊れて使用できなくなった道具に対する祈りなのでしょうか・・・

◀J2号土坑出土遺物

▶J3号土坑出土遺物

考古学財団
一般国道 246 号線（厚木秦野道路）建設事業に伴う発掘調査
上粕屋・秋山遺跡（伊勢原市 No.74・205 遺跡）
令和７年度　見学会資料 2025（令和７）年 11 月 15 日

公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町３-191-１
TEL：045-252-8689　HP：https://www.kaf.or.jp/

令和7年度　見学会資料

考古学財団

上粕屋（かみかすや）・秋山（あきやま）遺跡

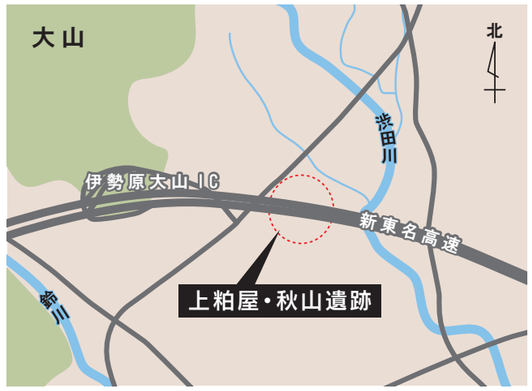
第２次調査
（伊勢原市 No.74・205 遺跡）

主催：公益財団法人かながわ考古学財団
共催：伊勢原市教育委員会

遺跡の概要

本遺跡は伊勢原市上粕屋字秋山に位置しており、第２次調査は 2016（平成 28）年度に開始されました。

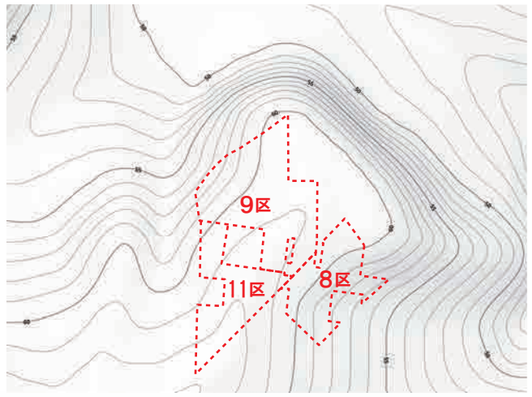
遺跡北西部には丹沢山地の一つである大山がそびえています。この大山を源流とする鈴川が形成した上粕屋扇状地に遺跡は所在します。また、遺跡の東側には渋田川が南流しています。細かな支流からなる渋田川は、複数の谷を形成し、谷に挟まれた部分は台地化します。こうしてできた台地上に遺跡は立地しています。



２万年以上にわたる人々の痕跡

これまでの発掘調査では旧石器時代～近世までの、様々な遺構・遺物が発見されています。

その中でも、縄文時代後期の調査は特筆されます。令和 4・5 年度に調査した８区では、台地斜面上に営まれた集落跡が発見され、注目を集めました。今年度調査している９区や 11 区は８区に隣接しており、同時期の遺構・遺物が多数見つかっています。



9 区 谷部では、合計して数万点の土器や石器が出土しています。いずれも破損しているものがほとんどであることから、谷地形を捨て場として利用していたことが想定されます。捨て場は、出土土器の型式から後期前葉～中葉を中心に形成されたものと考えられます。

〈9 区（谷部）出土遺物の一例〉

①凹石（くぼみいし）　石の表面に小さな丸い窪みを有するもの。窪みは、クルミなどの堅果類を叩き割った痕跡や、火を起こす際に棒を回転させたときの痕跡と考えられています。

②石皿（いしざら）　石の中央部分が皿状に大きく凹むもの。石皿の上に木の実などを乗せ、磨石を使ってすり潰していたと考えられています。

③磨石（すりいし）　石の表面に面的な摩耗痕を持つもの。石皿とセットで使用し、主に木の実などをすり潰すために使われました。

④石鏃（せきぞく）　三角形状の石器で、弓矢の先端に取り付ける狩猟の道具です。

⑤磨製石斧（ませいせきふ）　石材を磨き斧状に仕上げたもの。木製の柄を取り付け、主に木材を伐採するために使用されました。特に小型のものは、伐採した木材を加工するためのものと考えられます。割れにくい石材がよく用いられます。

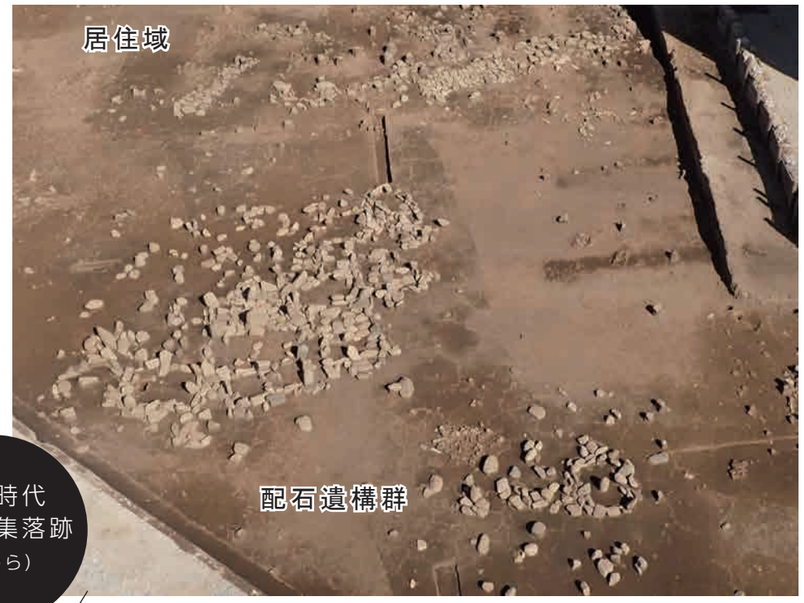
⑥打製石斧（だせいせきふ）　石材を打ち欠いて斧状に仕上げたもの。木製の柄を取り付け、主に竪穴住居や柱穴等を掘るためや、根菜類を掘り起こすために使用されました。

⑦石匙（いしさじ）　ナイフ状の刃部にツマミ状の突起を作出したもの。主に動物の解体や骨・木材等の加工に使用されました。

⑧石錘（せきすい）　扁平な石の両端が打ち欠かれているもの。打ち欠いた部分に縄をひっかけ、漁網のおもりとして使用されたと考えられています。

せきさいどき 赤彩土器　表面に赤い顔料が塗布された土器です。赤彩土器は稀にしか出土しないことから、煮炊きに使われる土器とは異なり、祭祀等に関わる特殊な遺物であると考えられます。

※9区・11 区は調査中です。今後の調査成果によって、遺構数や評価が変わる可能性があります。



縄文時代
後期の集落跡
（南から）

8 区（令和４・５年度調査）

後期前葉から中葉にかけての集落跡が発見されました。集落は斜面上に営まれ、高位に居住域が、低位に配石遺構および墓坑群が発見されました。

11 区

現在は縄文時代後期の調査をしています。後世の遺構により壊され、不明瞭な部分もありますが、敷石住居跡や配石遺構（または列石）と考えられる遺構が発見されています。これらの遺構は８区で発見された集落跡と同時期で、一連のものと考えられます。